

学力は社会性とどのように関連するのか？ (1)

○小林朋子 (静岡大学)
古見文一 (静岡大学)

村山 功 (静岡大学)

キーワード：レジリエンス、学力、ストレス反応

問題と目的

アクティブラーニングなどの教授法は、子ども同士のコミュニケーションが良好であることが前提となる。子どもの社会性と学力が関連していることは海外の研究で指摘されている (Collaborative for Academic, Social, and Emotional Learning, 2012)。しかし日本の子どもの学力と社会性との関連に関する基礎的なデータがないのが実情である。そこで、本研究では中学 3 年生における学力と社会性との関連について明らかにした。

方 法

調査対象者

A 県 B 町立中学校で 2014 年～2016 年に在籍していた中 3 の生徒を対象とした (2014 年 255 名, 2015 年 228 名, 2016 年 275 名計 758 名)。

調査内容および手続き

学力 全国学力・学習状況調査 (文部科学省) 国語 A・数学 A (知識に関する問題), 国語 B・数学 B (活用に関する問題) で得られた得点をその年の平均点に基づいて偏差値を算出した。

社会性に関する内容 尺度は、中学生用レジリエンス尺度 (石毛・無藤, 2006), ストレス反応質問紙 (石原・福田, 2007), 自尊感情尺度 (小島, 2013), 子ども用社会的スキル尺度 (江村ら, 2002) 用いた。アンケート調査を毎年 9 月に担任を通して実施した。この調査については静岡大学倫理審査委員会より承認を受けて実施した (承認番号 14-8, 15-11, 16-24)。

調査データの連結 同大倫理審査委員会の承認 (19-42) および, B 中学校管理職および B 町教育委員会の承諾を得て連結を行った。

結果と考察

学力を目的変数としたステップワイズ法による重回帰分析を行った結果を表に示す。ソーシャルスキルの「主張性」と「規律性」がすべての学力において正の影響を与えていたことがわかった。主張性は「自分の意見をはっきり言う」「友だちの意見に反対するに理由を言う」といった項目があり, アクティブラーニングで必要なスキルと言える。また「規律性」では「勉強中, 気をそらさないで最後までとりくむ」「先生の話集中して聞く」などがあることから, こうしたスキルが学力に正の影響を与えることは妥当であると考えられる。

一方で, ソーシャルスキルの「社会的働きかけ」とレジリエンスの「楽観性」が負の影響となっていた。「社会的働きかけ」は「友だちを遊びにさそう」「友だちをグループ活動に誘う」など, このスキルが高ければ友だちと関わりが増える可能性が高く, 勉強よりも遊びに向きやすいために学力に影響したと考えられる。また「楽観性」では, 「困ったことが起きててもよい方向に考える」「困った時, 考えるだけ考えたらもう悩まない」といった項目があることから, 勉強ができてなくて困っても深く考えることをしないために学力につながりにくい可能性が示唆された。

また国語と数学でレジリエンスの違いがあり, 国語では「内面共有性」, 数学では「意欲的活動性」が正の影響であった。内面共有性は他者との関係を基盤にしようとする心性であり, 「意欲的活動性」は「自ら問題解決をしようとする自立的な傾向」である。登場人物の心情を理解する国語や問題解決を進める数学の教科の特徴と関係することが示された。

国語A偏差値		国語B偏差値		数学A偏差値		数学B偏差値	
規律性	.290 **	規律性	.222 **	意欲低下	-.149 **	意欲低下	-.109 **
社会的働きかけ	-.285 **	楽観性	-.126 **	社会的働きかけ	-.252 **	規律性	.091 *
主張性	.254 **	内面共有性	.132 **	主張性	.161 **	社会的働きかけ	-.232 **
先生との関係	-.162 **	社会的働きかけ	-.163 **	規律性	.096 *	主張性	.177 **
イライラ	.066 +	主張性	.177 **	楽観性	-.158 **	楽観性	-.163 **
自信	-.085 *	先生との関係	-.144 **	意欲的活動性	.130 **	意欲的活動性	.149 **
内面共有性	.124 **						
楽観性	-.086 *						
R^2	.119 **	R^2	.076 **	R^2	.097 **	R^2	.088 **

** $p < .01$, * $p < .05$, + $p < .10$